

令和7年度小松市立東陵小学校 学校評価 1(中間)

めざす児童生徒像

- なりたい姿に向かってチャレンジできる子
- 自分や友達のがんばりや成長を見つけたり、応援したりできる子
- 自分で考えてすすんで行動（学習）できる子
- 他者と話し合い、問題を解決したり、新しい考えを生み出したりできる子

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定項目)	学校教育目標 めざす児童像	①②③④の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	①児童は、自分・学級・学校がより良くなるようと考えて行動している。	100	91	89.5	-9	・①②③④いずれも、教員アンケートの結果は100%であり、児童は92.7%、保護者は89.5%で、目標指標の85%を上回った。学校ビジョンの「めざす児童像」「めざす教師像」の実現に向けて、授業力・生徒指導力・学級経営力の向上に努めた結果、目標達成につながっていると考えられる。	・引き続き学校ビジョンの「めざす児童像」「めざす教師像」の実現に向けて、自分のよさに気づいたり、教師が児童の頑張りやよい行動を価値づけたりすることで、自己の成長をメタ認知させる。また、行事や「学校会議」等の取組を一層充実させ、クラスや学校の自治力を高め、人間関係づくりを推進していく。
			②児童は、互いに認め合い、協働しようとしている。	100	94		-6		
			③教師は、児童の良さを認め、意欲を引き出すよう努めている。	100	93		-7		
			④教師は、授業力・生徒指導力・学級経営力の向上に努めている。	100					
			集計						
重点項目 石川県共通	業務働きの方改善	①②の平均が 中間・・・90%以上 期末・・・100%以上	①80時間越えゼロに向かって、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	80				・超過勤務が80時間を超えた職員は4月に1名であった。4~6月の超過勤務時間平均は32時間であり、昨年度の45時間より減少した。	・組織として、担任業務支援、教材研究の時間確保のため、日課や支援員の配置等の工夫、校務の平準化等を推進し、やりがいのある職場作りを推進する。
			②学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
重点項目 小松市共通	学校研究	①②の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	①研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	80				・今年度は、「単元の軸を意識して計画を立てる」という新しい視点を取り入れた。アンケート結果から、ほとんどの教員が新しい視点を理解し、授業に活かそうとしていることが分かる。また、6月に行なった単元の軸を取り入れた提案授業では、特に注視する児童を決めて参観することで、児童の姿や変容という視点から授業を振り返ることができた。	・新しい視点の研究を始めたばかりということもあって、研究授業の整理会では話し合いの深まりが不十分であった。「単元の軸」が意識されることはどういうことなのかを指導主事や専門指導員から学ぶ機会を設けている。そこで学びを取り入れた単元計画作成及び指導案づくりができるようにしていく。
			②授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
			集計						
	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①⑤⑥の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	①児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	90.9	84.1		-6.8	・おおむね目標を達成することができた。児童は全ての項目で目標を達成することができると認識しているが、教員は④について、目標を達成していないと感じている。②や③のように「自分の話」を広めたり深めたりすることができる児童があるが、④のように「相手意識」を持つことはまだ十分でないことが分かる。今後は、相手意識を高める活動や教員の声かけや授業の工夫が必要だと考えられる。	・相手意識を高める活動を研究推進委員会で話し合い、星の帶タイムのクラスタイムなどで取り組むことができないかを検討していく。 ・教員の声かけや工夫では、それぞれのクラスで行っている取り組みを共有し、効果的な取り組みを広める機会をもつ。
			②児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	81.8	87.9		6.1		
			③児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	81.8	86		4.2		
			④児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	72.7	89.7		17		
			⑤児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90.9	86.9		-4		
			⑥児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100	94.4		-5.6		
	カリキュラム・マネジメント	①②③④の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	集計						
			①指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100				・①②③④の平均割合が全て100%で目標値に達することができた。 ・①については、年度当初、カリキュラムマップを確認し修正しながら、教科の繋がりを把握し、指導計画の作成に当たっている。 ・②については、月末にPDCAの会を設け、全教員で確認、修正している。 ・③については、全教員で学力調査を分担分析し、課題を整理し、その課題を基に共通実践項目をあげた。それぞれの学年がどの単元でどのように取り組むのか具体案をチェックシートに明記し、課題克服に努めてきた。 ・④については、主任同士で情報交換を行ったり、校内研修参加や授業参観を連携校同士で積極的に行なった。	②今後も、PDCAの会で、定期的に確認、修正していく。 ③夏季休業中に、今年度の学力調査結果を確認し、自校採点したものと結果の点数の差が大きい問題を分析する。その差の原因を明確にし、全教員と共通理解を図り、2学期以降の授業改善につなげる。継続してチェックシートを活用し授業改善に取り組む。 ④今後も、校内研修参加や授業参観など積極的に連携を図っていく。
			②児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100					
			③全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100					
			④校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100					
			集計						
	学力の向上	①②③④の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	①児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	100	87.5		-12.5	・①②の平均割合が目標値に達することができた。 ・①については、家庭学習強化週間では、一人ひとりがテストまでの見通しを持ち、計画立て取り組めるようシートの様式を改善した。児童は実施していく中で学習内容を変更しながら取り組むことができた。 ・②については、授業では、パワポ、キャンバ、パドレット、カブリトなどを活用している。また、隙間にキュビナを活用している。	・①については、児童のぶり返りを還元していく。めあてに対する計画の立て方や修正の仕方、振り返りなど、6年生の良い手本を、全校に広め、どの学年も意識して取り組めるようにする。 ・②については、教員間で活用方法を共有するための研修会を開き、誰でも使える状況をつくり、授業や行事など学校生活に取り入れていく。
			②児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	90	88		-2		
			集計						
	学習方法	①②の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	①児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	100	87.5		-12.5	・①②の平均割合が目標値に達することができた。 ・①については、家庭学習強化週間では、一人ひとりがテストまでの見通しを持ち、計画立て取り組めるようシートの様式を改善した。児童は実施していく中で学習内容を変更しながら取り組むことができた。 ・②については、授業では、パワポ、キャンバ、パドレット、カブリトなどを活用している。また、隙間にキュビナを活用している。	・①については、児童のぶり返りを還元していく。めあてに対する計画の立て方や修正の仕方、振り返りなど、6年生の良い手本を、全校に広め、どの学年も意識して取り組めるようにする。 ・②については、教員間で活用方法を共有するための研修会を開き、誰でも使える状況をつくり、授業や行事など学校生活に取り入れていく。
			②児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	90	88		-2		
			集計						